

教科 科目 単位数	芸術 書道 I 2	受信校	北海道礼文高等学校	学科 学年(年次) 履修・実施	普通科 第一学年 必修・一斉
教科書 副教材	「新編 書道 I」(大修館書店)				

1 目標

書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 書によさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。
- (3) 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

(高等学校学習指導要領(平成30年3月告示)より)

2 学習のポイント

- (1) 作品制作のポイントの整理や鑑賞活動などにワークシートを使用することがありますので、活用してください。
- (2) ほぼ毎時間、自分で写真を撮影して、classroom を通して作品を提出します。
- (3) 試験は実施しません。毎回の提出作品やポートフォリオへの記述、取り組みの様子などをもとに評価をします。書道 I では、作品制作のための技術を身に付ける学習だけではなく、様々な学習活動を行い、評価をします。
- (4) この科目では、実技だけではなく、根拠をもって作品を鑑賞する活動や、制作する上で自分自身が考えたことを記述するといった活動があります。考えたことや感じたことを積極的に、文章や発言で表現するように心がけてください。
- (5) 友達と作品の相互批評や、話し合いの場面も多くあります。積極的に参加してください。
- (6) 実技教科なので用具・用材は大切です。直接作品に影響が出ますので、大切に扱ってください。

3 学習の評価

(1) 評価の観点とその趣旨

次の3つの観点に基づいて内容や時間のまとまりごとに「A・B・C」の3段階で評価を行い、学年末に5段階評定へと総括します。

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
・書の表現の方法や形式、書表現の多様性について幅広く理解している。 ・書写能力を向上させるとともに、書の伝統に基づき、作品を効果的に表現するための基礎的な技能を身に付け、表している。	書によさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりしている。	主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。

(2) 評価方法と観点との関連(◎=特に関連の深いもの)

評価方法\観点	①	②	③	主な対象
ア 学習活動の観察	○	○	◎	振り返り、学習活動の取組
イ ワークシート	○	◎	◎	FigJam、ワークシート、ポートフォリオ等への記述
ウ 作品	◎	○	○	提出作品
総括時の比率	1	1	1	

4 その他

<遠隔授業について>

- (1) 授業者は対面授業時を除き、基本的に配信校から授業をします。授業中の質問や疑問等については随時対応しますが、申し出にくい場合などについては、教室にいる受信担当の先生に申し出ても構いません。
- (2) 授業者が現地にいない分、皆さんの積極的な活動がより一層重要になります。メリハリをもって活動したり、わからないところを互いに教え合ったりすることは特に重要です。ぜひ、一緒に授業を「作っていく」つもりで参加してください。
- (3) その他の遠隔授業の特性についてはオリエンテーション時に説明します。

<学習の支援について>

- (1) 授業について、不安なことや気になること、配慮して欲しいことなどがあれば、可能な範囲で個別対応します。直接相談しにくい場合は、classroom やポートフォリオに書いてもらっても構いません。

5 年間授業計画 (計 70 時間)

月	○題材 ●主な教材	配当 (時)	【学習領域】 ・主な学習内容 □対面授業 ◇テスト等	目標・ねらい	観点ごとの 主な評価の対象 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度
4 / 5	○オリエンテーション	2	・書道 I の学習について ・書表現の多様性について知る。 □対面授業① (予定)	高等学校における書道の学習について見通しをもつことができる。 端末の使用方法についても理解することができる。	年間を通して以下の項目を主な評価の対象とする。 ①ワークシートへの記述状況、提出作品 ②ワークシートへの記述状況 ③取組の状況、ワークシートへの記入状況、提出作品
	○漢字の書の学習① 書風と結構法 ●九成宮醜泉銘 ●孔子廟堂碑	4	【A 表現】【B 鑑賞】 ・楷書の基本用筆を学ぶ ・様々な楷書の表現の習得	基本的な楷書の筆使いを学ぶ。 初唐の三大家の書を学び、同じ楷書の表現にも様々な違いがあることを理解し、表現することができる。	
	○漢字の書の学習② 多様な筆使い ●雁塔聖教序 ●顔氏家廟碑	4	【A 表現】【B 鑑賞】 ・入筆に留意して書く。 ・筆圧のかけ方による表現の違い。	入筆には様々な表現があることを知り、留意しながら書くことができる。筆圧の違いによる表現の差異に気付き表現できる。	
	○漢字の書の学習③ 円筆と方筆 ●牛橛造像記 ●鄭羲下碑	6	【A 表現】【B 鑑賞】 ・重厚な書風 ・方勢で力強い書風 ・円勢でゆったりした書風	初唐の三大家のような楷書の姿だけではなく、様々な楷書の表現があることを理解し、様々な表現をするための筆使いを表現することができる。	
6 / 7	○漢字の書の学習④ 行書の基本用筆 ●蘭亭序 (神龍半印本)	4	【A 表現】【B 鑑賞】 ・行書の基本用筆を学ぶ ・蘭亭序の良さを味わう。	蘭亭序の歴史的背景を理解することができる。行書の持つリズムや流れを意識して表現することができる。	
	○漢字の書の学習⑤ 様々な行書の筆使いと書風 ●祭姪稿 ●風信帖	6	【A 表現】【B 鑑賞】 ・蘭亭序とは異なる行書の表現を学ぶ。 ・古典の書かれた背景を理解し、古典を味わう。	古典の書かれた背景の理解を通して、線質や字形から作者の感情を想像することができる。 蘭亭序とは異なる行書の筆づかいを表現することができる。	
8 / 9 / 10	○漢字の書の学習⑥ 篆書の用筆と運筆 ●泰山刻石	2	【A 表現】【B 鑑賞】 ・篆書の基本的な筆使いの習得	篆書の筆使いである、藏鋒、中鋒を習得し、篆書の特徴的な文字造形を表現できる。	
	○漢字の書の学習⑦ 篆刻の学習 ●様々な篆刻作品	6	【A 表現】【B 鑑賞】 ・篆刻についての理解を深める。 ・様々な篆刻作品に親しむ。 ・自分の落款印を制作する。	篆刻の歴史や用途についての理解を深めることができる。また、様々な篆刻作品の作風があることを理解できる。自分なりの落款印を制作することができる。	
	○漢字の書の学習⑧ 国際交流に向けた漢字作品を制作する。	4	【A 表現】【B 鑑賞】 ・漢字創作 ・色紙に漢字を書く	他者に作品を贈るという相手意識を持って作品制作をすることができる。伝えたいイメージを考えながら制作ができる。	
	○漢字の書の学習⑨ 隷書の筆使いと字形 ●曹全碑	4	【A 表現】【B 鑑賞】 ・隷書の筆使いの習得	隷書の基本的な筆使いを表現することができる。臨書例との違いを指摘することで、細かな字形の違いを意識して臨書できる。	

令和8年度 遠隔授業配信シラバス

	○漢字の書の学習⑩ 草書の用筆と運筆 ●書譜	2	【A表現】【B鑑賞】 ・基本的な草書の筆使いの習得 □対面授業②（予定）	草書の特徴を理解するとともに、基本的な草書の筆使いができるようになる。
11 / 12	○仮名の書① 仮名の基本的な筆使い ●いろは歌	4	【A表現】【B鑑賞】 ・仮名に親しむ ・仮名の基本的な筆使いの習得 ・和歌を書く	仮名の基本的な筆使いをできるようにする。文字の大小、行の流れ、墨の付け方に気をつけながら「蓬萊切」を書くことができる。
	○仮名の書② 単体と連綿 ●蓬萊切 ●高野切第三種 ●元永本古今和歌集	4	【A表現】【B鑑賞】 ・仮名の書風の違いを理解する。	同じ和歌の作品を比較し、違いを指摘することで、書風の特徴を言葉にすることができる。字幅の変化や墨の付け方に注意して書くことで、行の流れを表現できる。
	○仮名の書③ 散らし書き ●三色紙	2	【A表現】【B鑑賞】 ・色紙の表現を味わう。	色紙の表現を味わい、意図について考えることができる。古典の散らし方を学び表現することができる。
	○仮名の書④ 仮名の創作 自選の和歌	2	【A表現】【B鑑賞】 ・散らし書きの創作	仮名の基本的な用筆をいかして、自選の歌を表現することができる。意図に応じた構成や表現に向けて工夫することができる。
1 / 2 / 3	○漢字仮名交じりの書の学習① 楷書の古典の応用 ●海遠い海よ ●様々な現代の詩歌	4	【A表現】【B鑑賞】 ・漢字仮名交じりの書に触れる。 ・楷書の筆使いを応用した表現。	漢字仮名交じりの書の歴史等に触れ、どのような書なのかを理解するとともに、これまで学習した楷書の古典の用筆をいかした表現をすることができる。
	○漢字仮名交じりの書の学習② 筆脈と字形 ●様々な漢字仮名交じりの書の作品 ●様々な現代の詩歌	4	【A表現】【B鑑賞】 ・行書の古典の表現を応用した表現。 ・字形を工夫して書く。	これまで学習してきた行書の古典を生かして書くことで筆脈に留意して書くことができる。また、字形を工夫し表現を広げることができる。
	○漢字仮名交じりの書の表現 ●自選のことば等	4	【A表現】【B鑑賞】 ・構成の工夫 ・作品の構想・工夫	作品制作の過程を理解し、古典の応用、構成の工夫といった視点を加味しながら自分なりの表現をすることができる。
	○一年間のまとめ ●ポートフォリオに蓄積した自分の作品	2	【A表現】【B鑑賞】 ・一年間の学習の振り返り	自分のこれまでの書道の学習を振り返り、自分自身ができるようになったことを確認する。

※年間を通して、【鑑賞】の学習領域の活動を単元として行う予定。

※適宜、他者の作品を批評する活動や、意見交換しながら作品の構想、工夫をする活動を行う。